

授業科目 整形外科学療法学

【担当教員名】		対象学年	2	対象学科	理学
相馬 俊雄、佐藤 成登志		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	4	時間数	90
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		関心・意欲	
◎		◎		○	
【概要・一般目標：G10】					
整形外科疾患に対する理学療法を実施するために、病態・障害の回復過程について理解する。また、整形外科疾患における理学療法評価、治療技術、リスク管理、予防について習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
1. 整形外科疾患の病態・障害の回復過程について説明することができる。					
2. 整形外科疾患の回復時期に対応した評価を列挙して、選択できる。					
3. 整形外科疾患の回復時期に対応した評価を計画して、実施できる。					
4. 整形外科疾患の回復過程に対応した治療技術を列挙して、選択できる。					
5. 整形外科疾患の回復過程に対応した治療技術を計画して、実施できる。					
6. 整形外科疾患におけるリスク管理や予防について説明することができる。					
回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1・2	整形外科疾患の総論、高齢者の骨折	1・6	講義、担当：相馬 俊雄		
3・4	骨折および変形性関節症などの病態・障害の回復過程	1・6	講義、担当：相馬 俊雄		
5・6	股関節疾患における評価と治療	2・4・6	講義、担当：相馬 俊雄		
7・8	膝関節疾患における評価と治療	2・4・6	講義、担当：相馬 俊雄		
9・10	足関節疾患における評価と治療	2・4・6	講義、担当：相馬 俊雄		
11・12	肩関節疾患における評価と治療	2・4・6	講義、担当：相馬 俊雄 他		
13・14	脊柱（体幹）疾患における評価と治療	2・4・6	講義、担当：相馬 俊雄 他		
15	まとめ	1・2・4・6	講義、担当：相馬 俊雄		
16・17	整形外科疾患における運動療法の総論	1・6	演習：オリエンテーション（授業内容、授業評価の説明）、四肢関節の動かし方、担当：相馬 俊雄		
18・19	整形外科疾患における評価1	3	演習：触診（下肢の筋、骨のランドマーク）、担当：相馬 俊雄		
20・21	整形外科疾患における評価2	3	演習：姿勢分析（座位、立位）、動作分析（立ち上がり、歩行）、担当：相馬 俊雄		
22・23	整形外科疾患における運動療法1	5・6	演習：下肢関節の関節可動域運動、担当：相馬 俊雄		
24・25	整形外科疾患における運動療法2	5・6	演習：下肢筋に対するストレッチ、担当：相馬 俊雄		
26・27	整形外科疾患における運動療法3	5・6	演習：下肢筋に対する筋力強化、担当：相馬 俊雄		
28・29	整形外科疾患における運動療法4	5・6	演習：運動療法（自主トレーニングを含む）、担当：相馬 俊雄		
30・31	整形外科疾患の急性期におけるリスク管理	5・6	演習：整形外科疾患の術前・術後におけるリスク管理、担当：相馬 俊雄		
32・33	症例検討1	3・5・6	演習：大腿骨頸部骨折の評価、問題点抽出、治療プログラム立案、担当：相馬 俊雄		
34・35	症例検討2	3・5・6	演習：変形性関節症の評価、問題点抽出、治療プログラム立案、担当：相馬 俊雄		
36・37	症例検討3	3・5・6	演習：関節リウマチの評価、問題点抽出、治療プログラム立案、担当：相馬 俊雄		
38・39	肩関節疾患における評価	3・6	演習：肩関節疾患の評価、問題点抽出、治療プログラム立案、担当：相馬 俊雄 他		
40・41	肩関節疾患における治療技術	5・6	演習：肩関節疾患の治療手技、運動療法、担当：相馬 俊雄 他		
42・43	脊柱（体幹）における評価	3・6	演習：脊柱（体幹）疾患の評価（姿勢分析）、問題点抽出、治療プログラム立案、担当：相馬 俊雄 他		
44・45	脊柱（体幹）における治療技術	5・6	演習：脊柱（体幹）疾患の治療手技、運動療法、担当：相馬 俊雄 他		
【使用図書】		＜書名＞		＜著者名＞	
教科書 (必ず購入する書籍)		運動器障害理学療法学1		石川朗、河村廣幸 他 中山書店	
		運動器障害理学療法学2		石川朗、河村廣幸 他 中山書店	
参考書		運動器リハビリテーション機能評価1		監訳 陶山哲夫 他 エルゼビア・ジャパン 10,000円＋税	
		運動器リハビリテーション機能評価2		監訳 陶山哲夫 他 エルゼビア・ジャパン 10,000円＋税	
その他の資料					
【評価方法】		【履修上の留意点】			
筆記試験・実技試験 *筆記試験、実技試験のどちらも合格基準を満たさなければ不合格とする。		・演習時は、白衣（ケーシー）着用すること。 ・白衣（ケーシー）の下には、短パン、Tシャツを着用すること。			